

「平成 2 9 年度富山市中学校 1 年生学力調査」
結果の概要について

富山市教育委員会

「平成29年度富山市中学校1年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- ・ 各中学校が、1学年生徒の入学時の学力定着状況を把握し、今後の学力向上に向けた学習指導に生かす。
- ・ 生徒一人一人が自分の努力すべき課題に向かって、意欲的に学習に取り組む。
- ・ 各小学校は、卒業生の調査結果を踏まえ、学習指導の改善・充実を図る。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成29年4月11日(火)、12日(水)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科
- 3 実施学校数・生徒数

実施学校数	生徒数	
27校 1分校 (附属中を含む)	在籍数	3,692人
	受検者数	3,621人 (4教科全てを受検した生徒数)

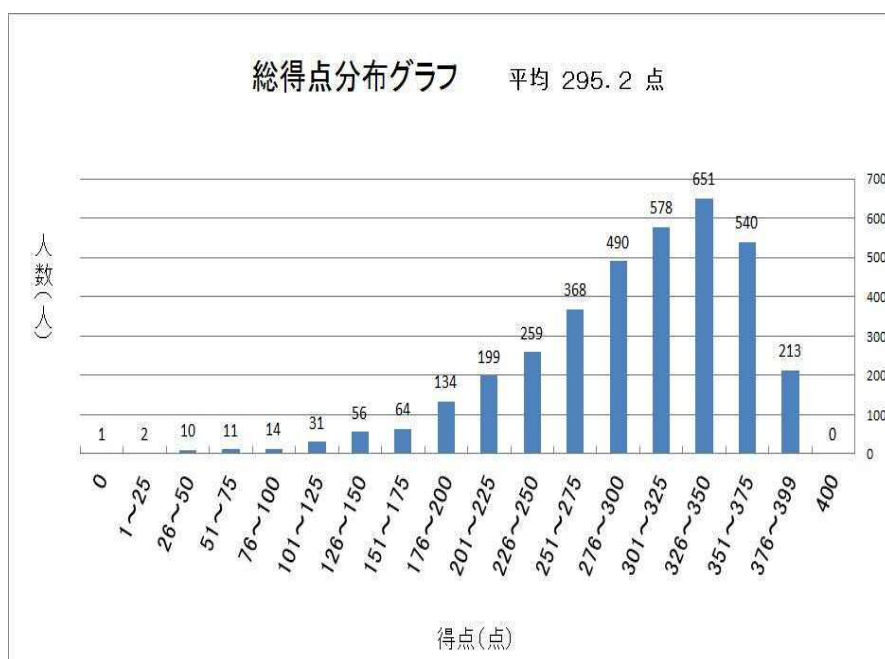
III 結果の概況(小数第2位で四捨五入してあるため、計が100%にならない場合がある。)

1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	4教科
74.0点	68.0点	71.6点	81.8点	295.2点

2 総得点分布表・グラフ

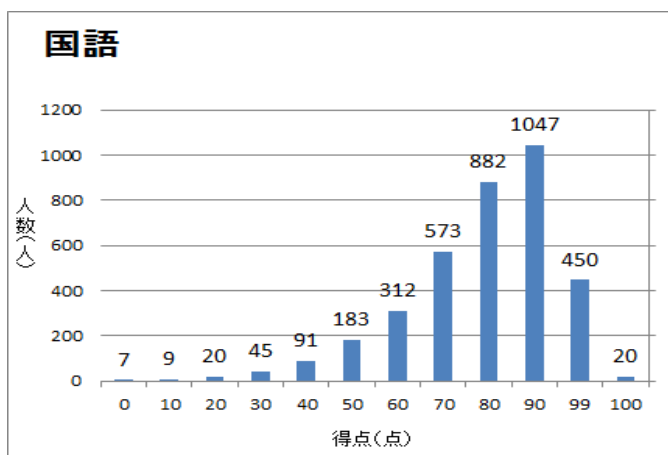
得点範囲	度数	%
400	0	0.0%
376~399	213	5.9%
351~375	540	14.9%
326~350	651	18.0%
301~325	578	16.0%
276~300	490	13.5%
251~275	368	10.2%
226~250	259	7.2%
201~225	199	5.5%
176~200	134	3.7%
151~175	64	1.8%
126~150	56	1.5%
101~125	31	0.9%
76~100	14	0.4%
51~75	11	0.3%
26~50	10	0.3%
1~25	2	0.1%
0	1	0.0%
計	3,621	100.0%



3 教科別得点分布表・グラフ

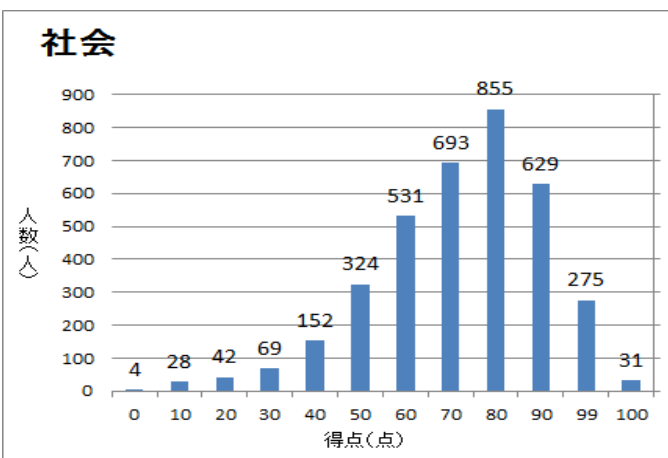
国語

得点範囲	度数	%
100	20	0.5%
91~99	450	12.4%
81~90	1,047	28.8%
71~80	882	24.2%
61~70	573	15.7%
51~60	312	8.6%
41~50	183	5.0%
31~40	91	2.5%
21~30	45	1.2%
11~20	20	0.5%
1~10	9	0.2%
0	7	0.2%
計	3,639	100.0%



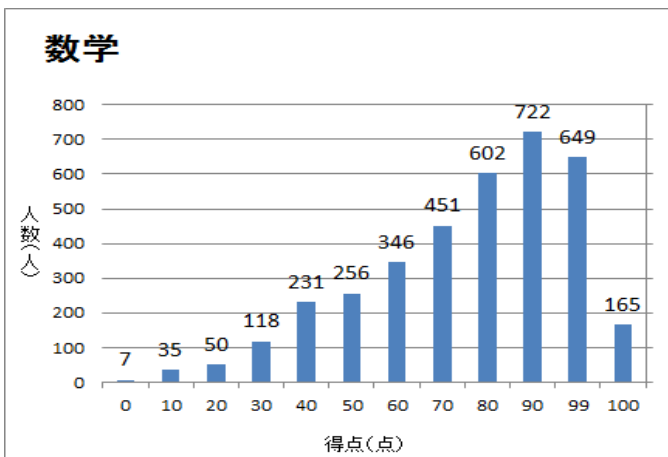
社会

得点範囲	度数	%
100	31	0.9%
91~99	275	7.6%
81~90	629	17.3%
71~80	855	23.5%
61~70	693	19.1%
51~60	531	14.6%
41~50	324	8.9%
31~40	152	4.2%
21~30	69	1.9%
11~20	42	1.2%
1~10	28	0.8%
0	4	0.1%
計	3,633	100.0%



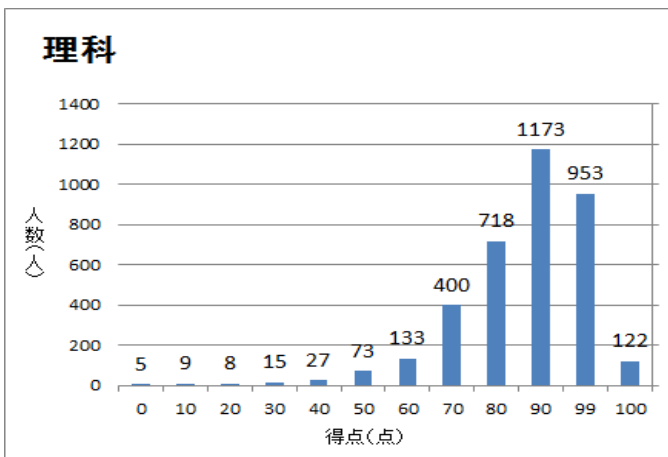
数学

得点範囲	度数	%
100	165	4.5%
91~99	649	17.9%
81~90	722	19.9%
71~80	602	16.6%
61~70	451	12.4%
51~60	346	9.5%
41~50	256	7.0%
31~40	231	6.4%
21~30	118	3.2%
11~20	50	1.4%
1~10	35	1.0%
0	7	0.2%
計	3,632	100.0%



理科

得点範囲	度数	%
100	122	3.4%
91~99	953	26.2%
81~90	1,173	32.3%
71~80	718	19.7%
61~70	400	11.0%
51~60	133	3.7%
41~50	73	2.0%
31~40	27	0.7%
21~30	15	0.4%
11~20	8	0.2%
1~10	9	0.2%
0	5	0.1%
計	3,636	100.0%



IV 結果の概要

1 抽出調査について

27中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番までを抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各クラスから8人の抽出を行うものとした。(楡原中学校は4名のみ)

2 抽出生徒数

学校数学級数抽出生徒数

27校 109学級 868人(附属中含む)

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題

設問別正答率表・グラフから読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 正答率の低い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の低い問題について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

2 今後の指導

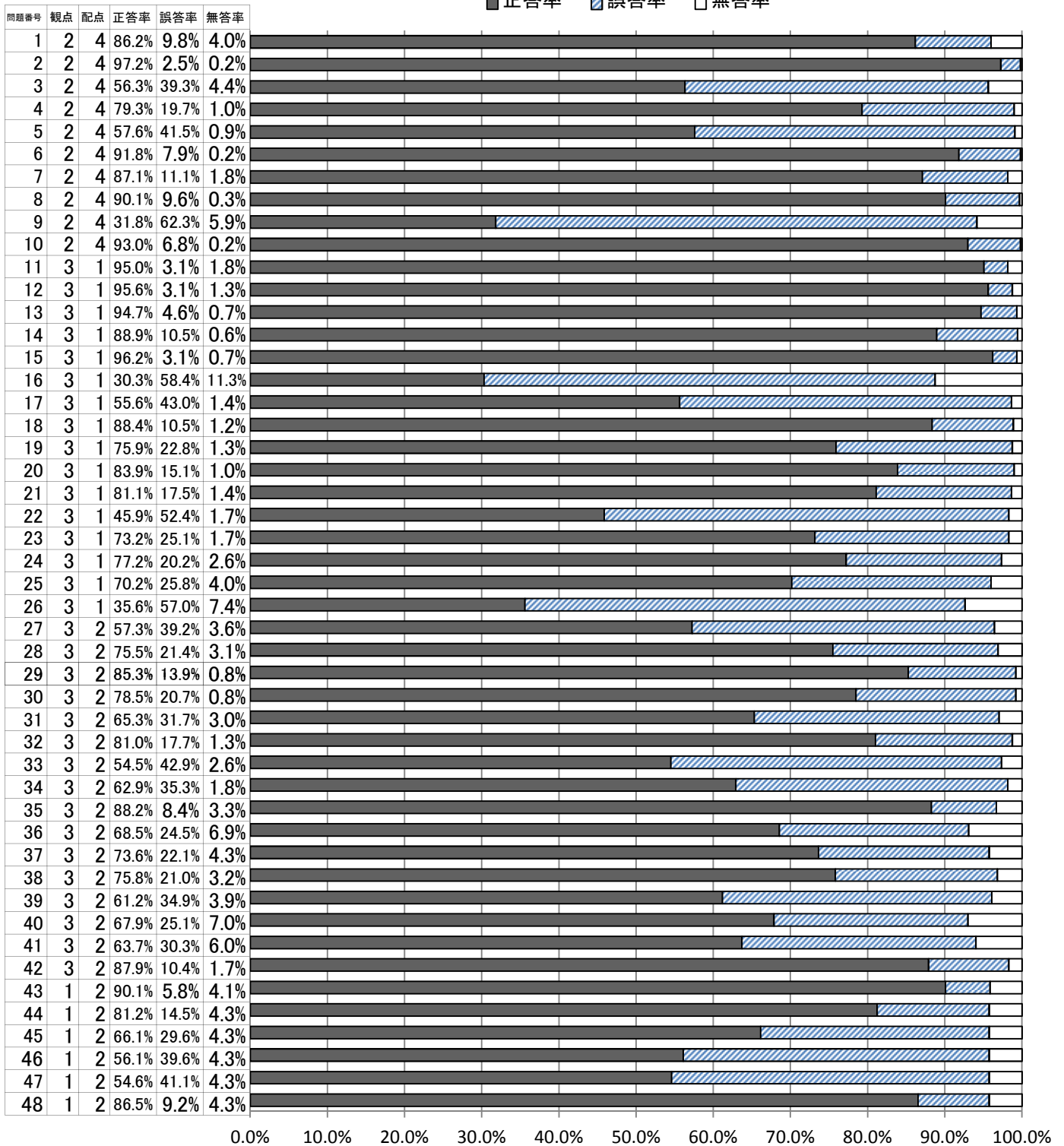
1の(3)で考察した正答率の低い問題を中心に今後の指導の工夫について表記する。

VI 抽出生徒から分析する各教科の概要

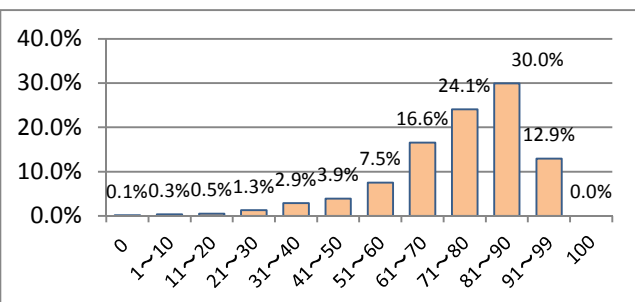
(小数第2位で四捨五入してあるため、正答率、誤答率、無答率の合計が100%にならない場合がある。)

国語 抽出生徒数 868人 抽出平均 74.3点

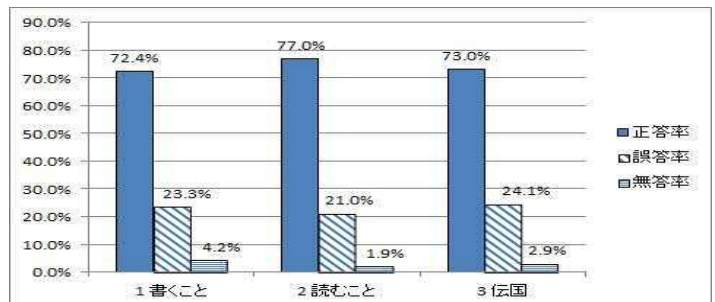
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、74.3点であり、基礎的・基本的な力は概ね身につけている。「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に対し「読むこと」の観点からは、平均正答率がやや高い。また、「書くこと」の無答率がやや高い傾向が見られる。

(2) 正答率の高い問題について

「読むこと」では、語句の意味、接続詞、登場人物の心の動き等を選択肢から適切に選ぶ問題において正答率が高い。(通し番号2、6、8、10)

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字の読みに関する問題において正答率が高い。(通し番号11～15)

「書くこと」では、題意にあった内容の文を字数の条件通りに、二段落構成で書くことにおいて正答率が高い。(通し番号43、48)

これらのことから、これまでの学力調査の結果を分析し、改善を図ったり、条件を明確にした書く活動を繰り返し行ったりしてきたことで、一定の成果が得られたと考えられる。

(3) 正答率の低い問題について

「読むこと」では、大意を選択する設問の正答率は90.1%であったのに対し(通し番号8)、登場人物の心情を記述する設問の正答率は31.8%であったことから(通し番号9)、読み取ったことを自分の言葉で表現することに課題が見られる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、特別な読み方や和語に関する問題の正答率が低い。言葉としては知っているが、読めなかったり、漢字での表記と結びつかなかったりしていることが考えられる。(通し番号16、22、26)

(通し番号9)

[一] 8 でも、カララは何も言わなかった。ただじっととなりにいて、南にわたっていく群れをいっしょに見つめていた。とありますが、そのときのカララの気持ちを書きましょう。

(通し番号22、26)

[四] 次の言葉の漢語と和語の読みがなをひらがなで書きましょう。

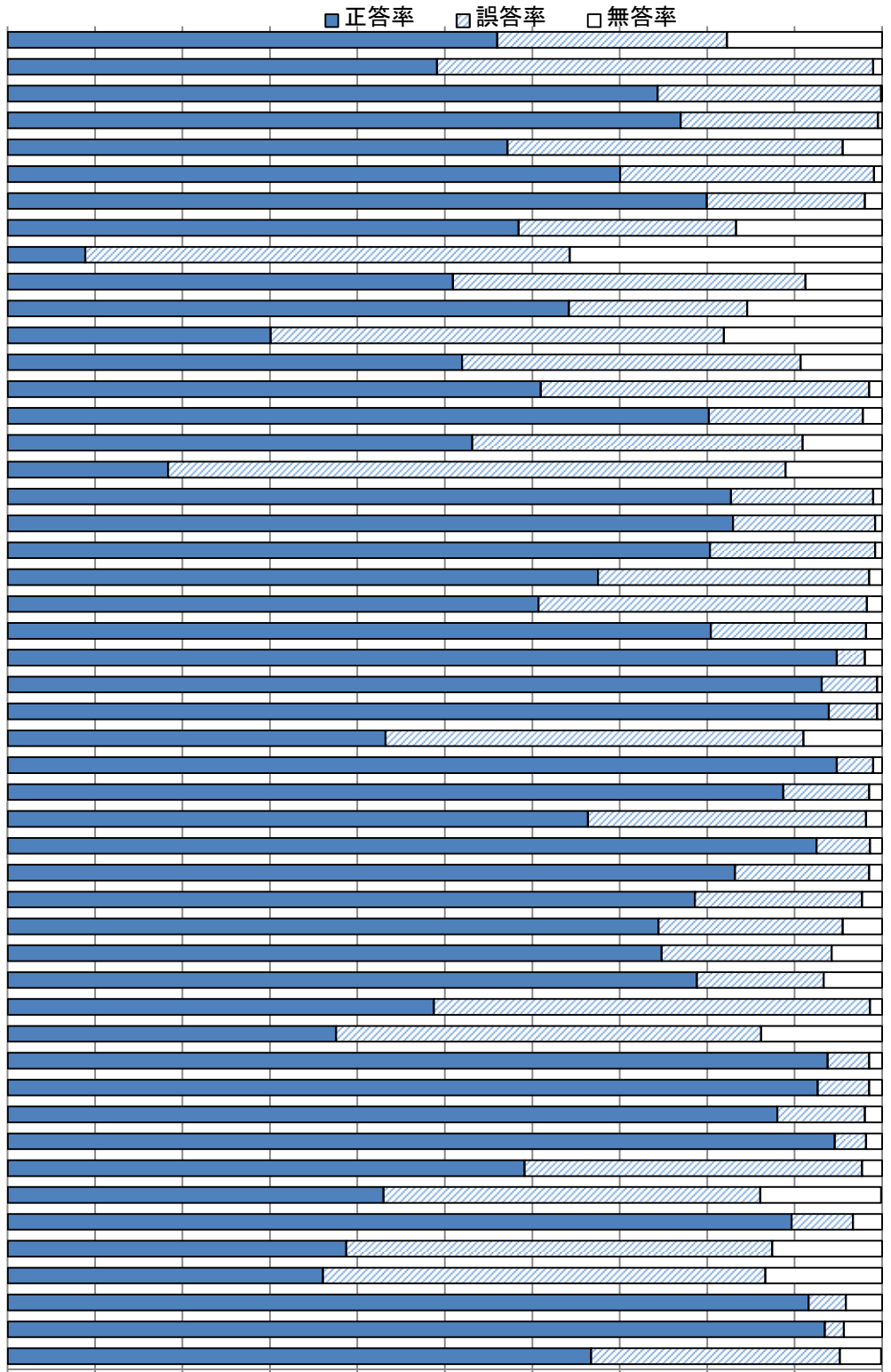
- | | | | | | |
|---|----|-----|---|-----|---|
| ① | 生物 | 漢語〔 | 〕 | 和語〔 | 〕 |
| ③ | 初日 | 漢語〔 | 〕 | 和語〔 | 〕 |

2 今後の授業に向けて

- (1) 「読むこと」の能力を育成するために、特に物語教材では、主題に沿った読みができるようにすることが大切である。そのためには、ねらいが明確になるように単元や授業を構想すること、自分と違う他者の読みを知り、多面的な読みにつながるように互いの考えを交流することが大切である。
- (2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、伝統的な言語文化を大切にすることを育むために、我が国の歴史の中で継承されてきた言語文化に親しむ機会をもつことが大切である。言葉を扱う小単元を大切に指導し、他教科でも意識して取り上げることによって、日本人の生活に根ざした言葉に目を向ける機会を増やす。
- (3) 「書くこと」の能力を育成するため、自分の書いた文を推敲する機会を意図的に設定する。自分の意見やその根拠、事実、具体例等、段落構成を工夫した書く活動を継続するとともに、相手に伝えることを意識した文章になるよう、自分で読み直す、友達と読み合うなどして対話的な活動を促すことが大切である。

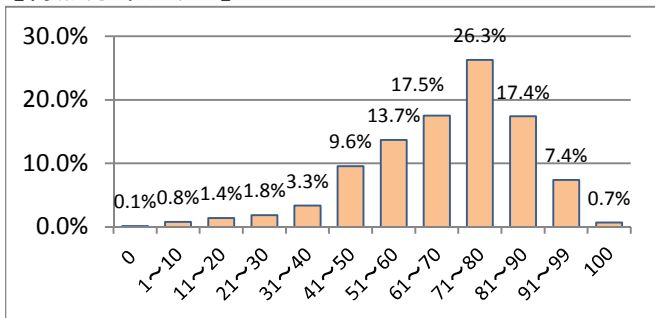
【設問別正答率表・グラフ】

問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	3	2	56.0%	26.3%	17.7%
2	3	2	49.1%	49.9%	1.0%
3	3	2	74.3%	25.6%	0.1%
4	3	2	77.0%	22.6%	0.5%
5	3	2	57.1%	38.4%	4.5%
6	2	2	70.0%	29.0%	0.9%
7	2	2	80.0%	18.1%	2.0%
8	3	2	58.4%	24.9%	16.7%
9	3	2	8.9%	55.4%	35.7%
10	1	2	50.9%	40.3%	8.8%
11	3	2	64.2%	20.4%	15.4%
12	3	2	30.1%	51.8%	18.1%
13	1	2	52.0%	38.7%	9.3%
14	2	2	60.9%	37.6%	1.5%
15	2	2	80.2%	17.6%	2.2%
16	2	2	53.1%	37.8%	9.1%
17	1	2	18.3%	70.6%	11.1%
18	3	2	82.7%	16.2%	1.0%
19	3	2	82.9%	16.2%	0.8%
20	3	2	80.3%	18.9%	0.8%
21	3	2	67.5%	31.0%	1.5%
22	3	2	60.7%	37.6%	1.7%
23	2	2	80.4%	17.7%	1.8%
24	3	2	94.8%	3.2%	2.0%
25	3	2	93.1%	6.3%	0.6%
26	3	2	93.9%	5.5%	0.6%
27	1	2	43.2%	47.8%	9.0%
28	2	2	94.8%	4.1%	1.0%
29	2	2	88.7%	9.8%	1.5%
30	2	2	66.4%	31.8%	1.8%
31	2	2	92.5%	6.1%	1.4%
32	2	2	83.2%	15.3%	1.5%
33	3	2	78.6%	19.1%	2.3%
34	3	2	74.4%	21.1%	4.5%
35	1	2	74.8%	19.5%	5.8%
36	3	2	78.8%	14.5%	6.7%
37	3	2	48.7%	49.9%	1.4%
38	3	2	37.6%	48.6%	13.8%
39	2	2	93.8%	4.7%	1.5%
40	2	2	92.6%	5.9%	1.5%
41	2	2	88.0%	10.0%	2.0%
42	2	2	94.6%	3.6%	1.8%
43	2	2	59.1%	38.6%	2.3%
44	1	2	43.0%	43.1%	13.8%
45	3	2	89.6%	7.0%	3.3%
46	1	2	38.7%	48.7%	12.6%
47	3	2	36.1%	50.6%	13.4%
48	2	2	91.6%	4.3%	4.1%
49	2	2	93.4%	2.2%	4.4%
50	3	2	66.7%	28.5%	4.7%

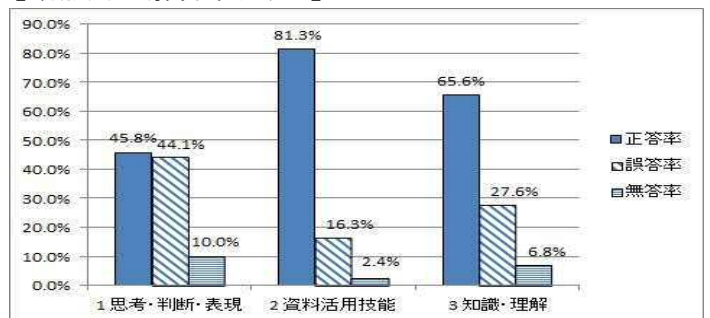


0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、68.4点であり、観点別では、「思考・判断・表現」の正答率が45.8%と低く、無答率も10.0%で4教科の観点別無答率の中で最も高い。また、「知識・理解」の正答率は65.6%と昨年と変わりはないが、無答率は6.8%（昨年6.5%、一昨年7.0%）と引き続き高い。

(2) 正答率の高い問題について

日本の歴史では、18題中11題の正答率が8割を越えている。特に、安土桃山時代の社会的事象に関しての「知識・理解」を問う問題の正答率は90%を越えている。（通し番号24、25、26）

また、日本とつながりの深い国について、グラフを読み取って答える問題の正答率も高く、資料を正しく読み取る力が定着してきている。（通し番号39、40、41、42、48、49）

(3) 正答率の低い問題について

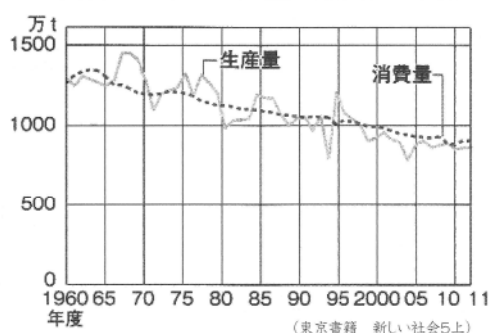
記述で答える形式の問題の正答率は低く、7問中6問で正答率が55%未満となっている。（通し番号10、13、17、27、44、46）

昨年、一昨年も出題した「中京工業地帯」「非核三原則」を答える問題の正答率はそれぞれ30.1%（昨年33.7%）、37.6%（昨年38.2%）と、昨年よりさらに低く、基本的な語句の理解やその定着に課題が見られる。（通し番号12、38）また、「（米の）生産調整」を答える問題の正答率が8.9%と、4教科の中で最も低く、無答率も35.7%と高い。（通し番号9）語句とその背景となっている社会的事象等を関連させながら、学んだことを確実に定着させる必要がある。

（通し番号9、10）

(3) 米づくりの問題点について、＜資料Ⅰ＞のグラフを見て答えましょう。

＜資料Ⅰ＞米の生産量と消費量の変化



① はるおさんは＜資料Ⅰ＞から、米の生産量が減っていることに気づきました。1969年から始まった水田を減らして米の生産量をおさえる政策を書きましょう。

② はるおさんは、＜資料Ⅰ＞から米の消費量も減っていることにも気づきました。米の消費量が減っている理由を書きましょう。

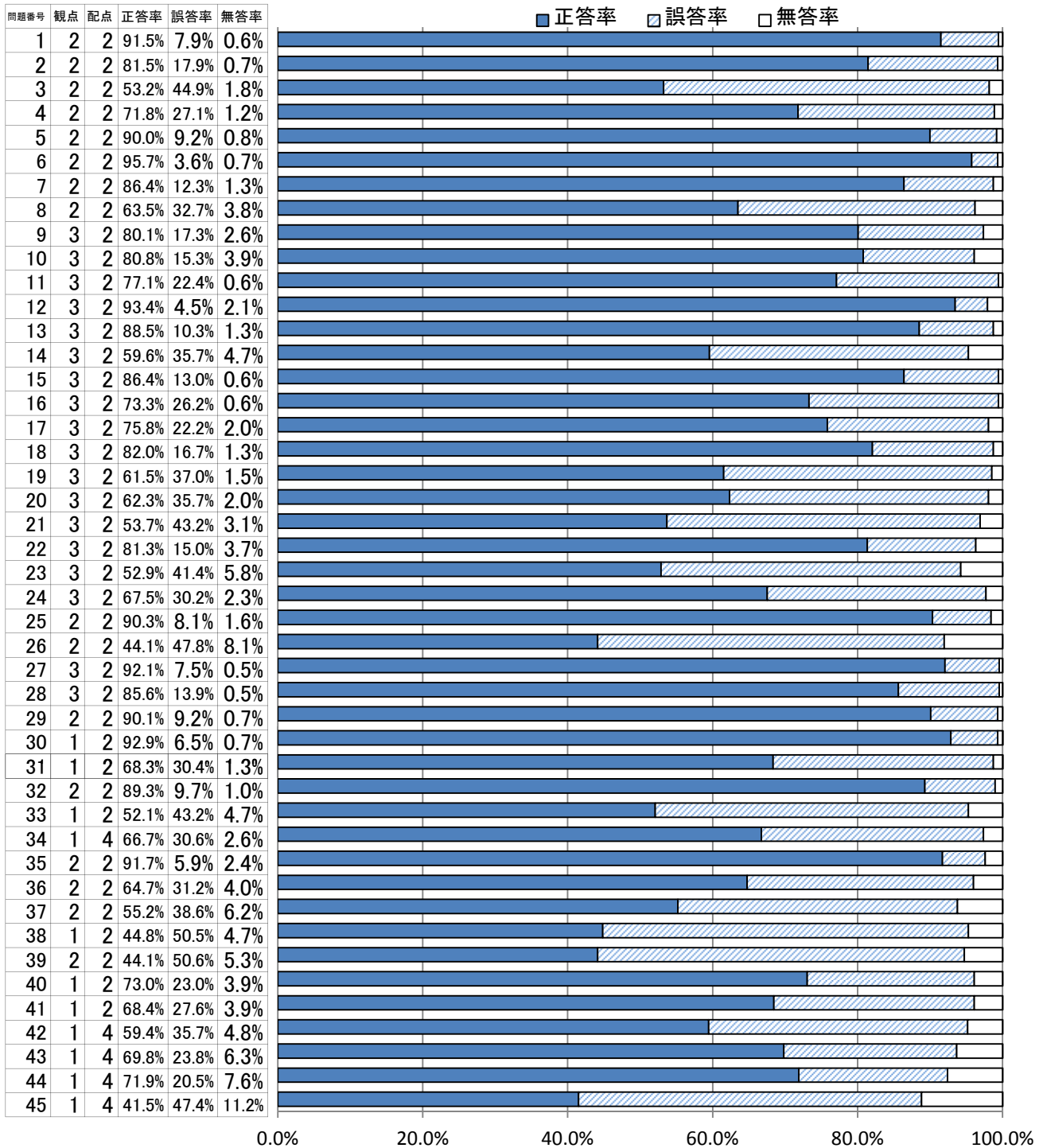
2 今後の授業に向けて

(1) 基礎的・基本的な知識となる語句については、その意味や語句同士の関係を確認して定着を図る。地図や地球儀等を使って視覚的に印象づけたり、声に出したり読んだり、グループで説明し合ったりするなど、多様な学習活動を組み合わせる。

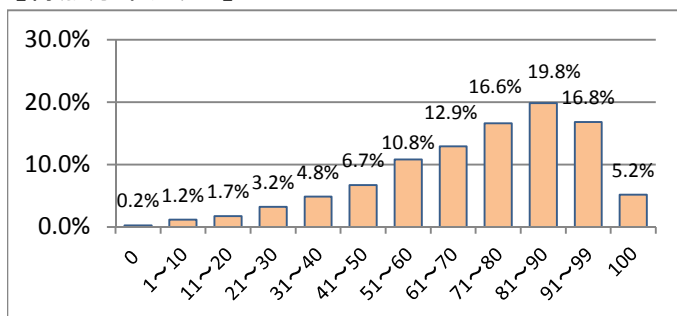
(2) 授業の終末には振り返りの時間を確保し、理解したことや考えたことを自分の言葉で書いてまとめる活動を計画的・継続的に取り入れる。また、歴史で学んだことを地理的分野や公民的分野で学ぶことと結びつけて取り扱うなど、できるだけ多くの社会的事象を関連させながら学習を進めていくようにする。

(3) 調べた事実を比較したり、関係づけたりしながら考察する際に、自分の思いや考えを表現するなどの言語活動を取り入れるなど、調べたり、考えたりすることと、表現することを一体的に行うことが重要である。

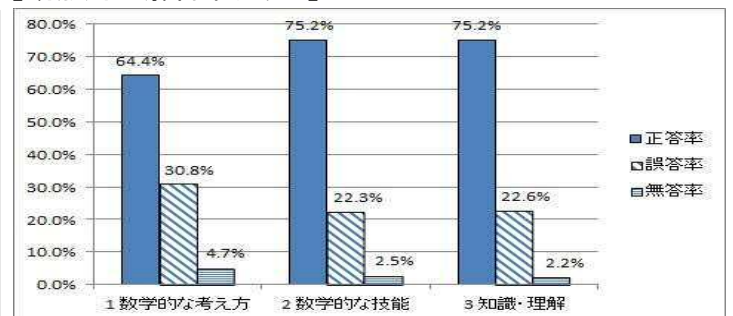
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体からみた結果

抽出平均点は71.5点であり、観点別では、「数量や図形などについての知識や理解」「数学的な技能」の正答率が75%を超えたのに対し、「数学的な見方や考え方」は、64.4%と低い。

(2) 正答率の高い問題について

正答率が90%以上の問題9問中6問が「数学的な技能」の問題である。また、展開図における点や辺の位置関係、組み立ててできる図形の名称を問う問題の正答率が高く、基礎的な計算技能や図形に関する知識・理解の定着がみられる。(通し番号12、13)

(3) 正答率の低い問題について

比の性質を用いて一方の値を求める問題(通し番号26)の正答率が44.1%と低く、整数倍となっている問題(通し番号25)の正答率と比べると46ポイント以上の開きがある。また、小数倍と比較量から基準量を求める問題では、式と答えの正答率がそれぞれ44.8%、44.1%である。これらのことから、小数や分数を用いた2数の関係を捉えることに課題があると考えられる。(通し番号38、39)

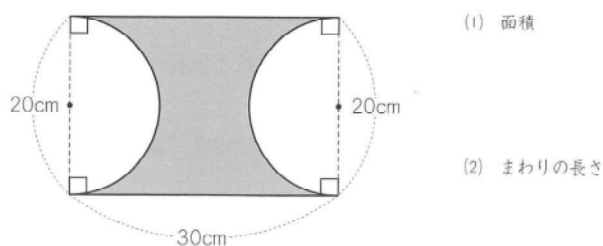
円を含む複合図形の周囲の長さを求める問題(通し番号45)の正答率が41.5%と全問題中最も低い。同じ図形の面積を求める問題(通し番号44)は、正答率が71.9%だったことから、複合図形の面積を求める問題を解く機会が多いが、周囲の長さを求める問題にふれる機会が少なく、解き慣れていないことが考えられる。

(通し番号38、39)

(15) 東町の面積は 13.8km^2 です。これは西町の面積の0.6倍です。西町の面積は何 km^2 ですか。式と答えを書きましょう。

(通し番号45)

(18) 色をぬった部分の面積とまわりの長さを求めましょう。(円周率は3.14とします。)



2 今後の授業に向けて

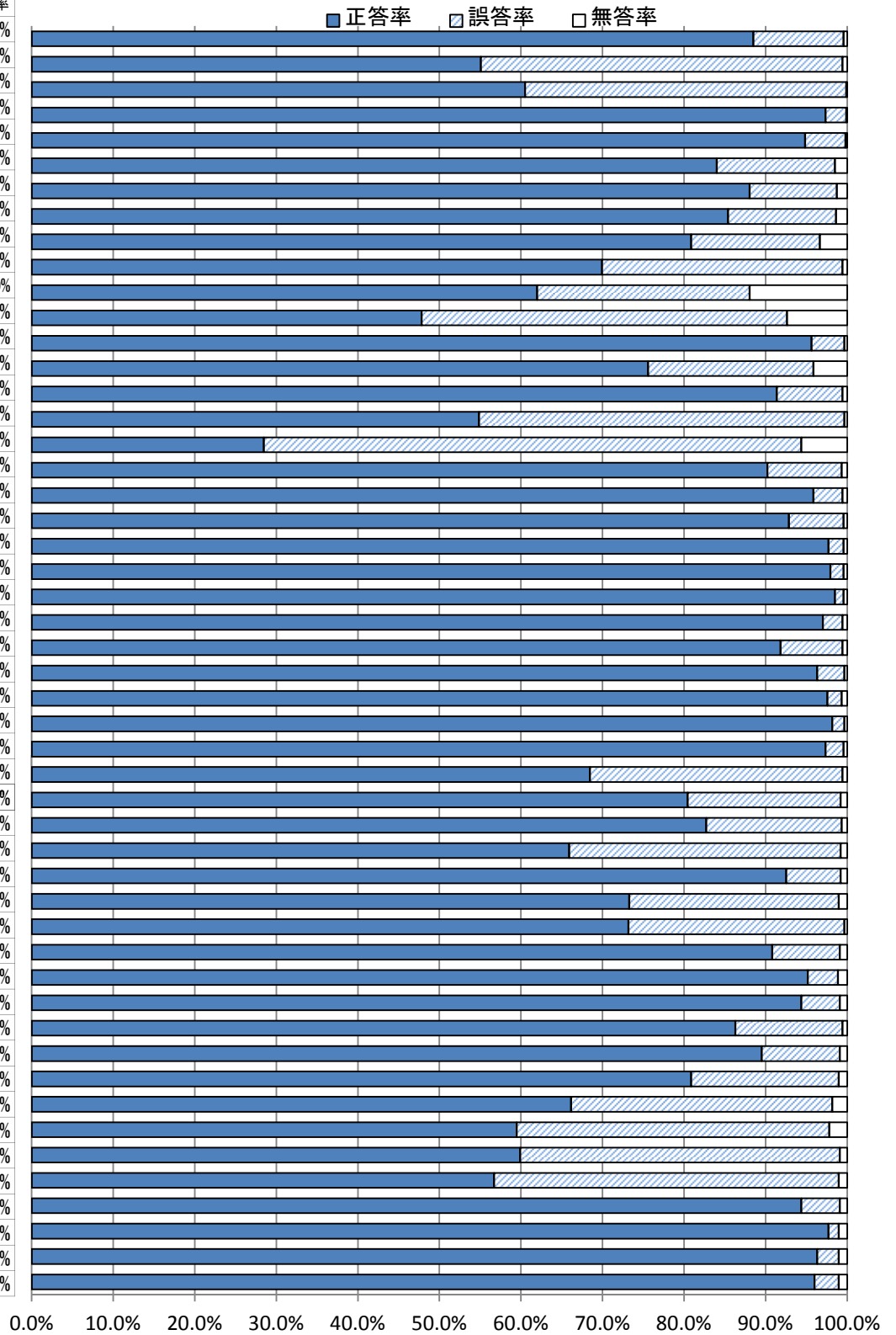
(1) 数量の関係を捉えるため、分かっていることを図や数直線に整理して考えたり、簡単な数値に置き換えて答えを見積もったりする活動を継続して行う。日常の事象を教材化し、問題解決的な学習を通して論理的に考える力をはぐくむことが大切である。

(2) 円の面積、円周の長さを求めるなど複数の公式を学習する際には、公式を導き出す過程を丁寧に扱うことに加え、公式を比較してそれぞれの概念を明確にすることで、実感を伴った理解を深めることにつなげていく。

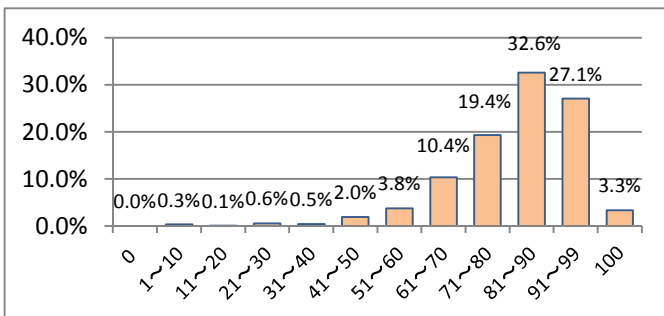
(3) 図形や算数の用語、基本的な計算処理の方法について、確実な定着を図ることだけではなく、基礎的・基本的な知識や技能を活用して、発展的・応用的に考える学習を取り入れることが重要である。

【設問別正答率表・グラフ】

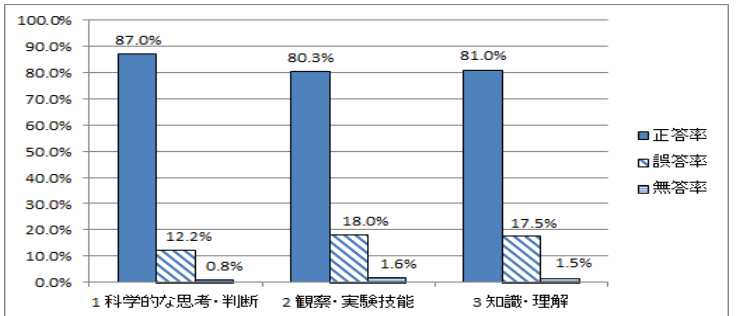
問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	2	2	88.5%	11.1%	0.5%
2	3	2	55.1%	44.4%	0.6%
3	3	2	60.5%	39.4%	0.1%
4	1	2	97.4%	2.5%	0.1%
5	1	2	94.8%	5.0%	0.2%
6	1	2	84.0%	14.5%	1.5%
7	1	2	88.0%	10.7%	1.3%
8	1	2	85.4%	13.2%	1.4%
9	2	2	80.9%	15.8%	3.3%
10	1	2	69.9%	29.5%	0.6%
11	3	2	62.0%	26.0%	12.0%
12	3	2	47.8%	44.8%	7.4%
13	1	2	95.6%	4.0%	0.3%
14	3	2	75.6%	20.3%	4.1%
15	1	2	91.4%	8.1%	0.6%
16	2	2	54.8%	44.8%	0.3%
17	2	2	28.5%	65.9%	5.6%
18	3	2	90.2%	9.1%	0.7%
19	3	2	95.9%	3.6%	0.6%
20	3	2	92.9%	6.7%	0.5%
21	3	2	97.7%	1.8%	0.5%
22	3	2	97.9%	1.6%	0.5%
23	3	2	98.5%	1.0%	0.5%
24	3	2	97.0%	2.4%	0.6%
25	3	2	91.8%	7.6%	0.6%
26	3	2	96.3%	3.3%	0.3%
27	3	2	97.6%	1.7%	0.7%
28	3	2	98.2%	1.5%	0.3%
29	3	2	97.4%	2.2%	0.5%
30	3	2	68.4%	31.0%	0.6%
31	1	2	80.4%	18.8%	0.8%
32	3	2	82.7%	16.6%	0.7%
33	3	2	65.9%	33.3%	0.8%
34	3	2	92.5%	6.7%	0.8%
35	3	2	73.3%	25.7%	1.0%
36	3	2	73.2%	26.5%	0.3%
37	3	2	90.8%	8.3%	0.9%
38	3	2	95.2%	3.7%	1.2%
39	3	2	94.4%	4.7%	0.9%
40	2	2	86.3%	13.1%	0.6%
41	1	2	89.5%	9.6%	0.9%
42	1	2	80.9%	18.1%	1.0%
43	3	2	66.1%	32.0%	1.8%
44	3	2	59.4%	38.4%	2.2%
45	3	2	59.9%	39.2%	0.9%
46	3	2	56.7%	42.3%	1.0%
47	2	2	94.4%	4.7%	0.9%
48	2	2	97.7%	1.3%	1.0%
49	2	2	96.3%	2.6%	1.0%
50	2	2	96.0%	3.0%	1.0%



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は、82.2点であり、観点別では、「科学的な思考・判断」の正答率が87.0%と高く、「観察・実験技能」と「知識・理解」の正答率も80%を超えている。「知識・理解」を問う問題では、正答率のばらつきが大きい。また、無答率は3観点とも1%前後と低い。

(2) 正答率の高い問題について

物の燃え方と空気の関係や植物の主に水蒸気を出す部分を明らかにするための実験に関する問題の正答率はそれぞれ97.4%、95.6%と高い。(通し番号4、13)

また、生活に基づいた「電気の利用方法」や天体としての「太陽や月の特徴」についての問題の正答率は概ね90%を超えており、知識が身につけている。(通し番号20～25、26～29)

さらに、「水溶液の実験をするときの注意事項」を問う問題の正答率が90%以上と高く、観察や実験を行う際の指導が十分なされていたと考えられる。(通し番号47～50)

(3) 正答率の低い問題について

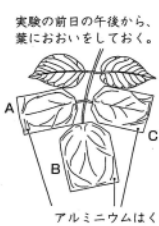
だ液以外の消化液の例を問う問題の正答率は47.8%であり、だ液以外の消化液についての理解が低い。

また、葉にでんぷんがあるかを調べるために対照実験を行う理由を問う問題の正答率が28.5%と低い。条件に着目して実験を行い、問題を解決していく力が身につけていないと考えられる。(通し番号12、17)






(通し番号 17)

(2) 下の表のようにして、エタノールで葉の緑色をぬいで調べる方法で、ジャガイモの葉に日光を当てるとでんぷんができるかどうかを調べました。

実験の前日の午後から、葉におおいをしておく。




アルミニウムはくのおおい

	前日の午後	朝	昼	6時間後
A		アルミニウムはくをどって、でんぷんがあるかを調べる。		
B		アルミニウムはくをどる。		でんぷんがあるかを調べる。
C		そのままにする。		アルミニウムはくをどって、でんぷんがあるかを調べる。

③ あきら君は、この実験で下のように疑問をもちました。Aの葉にでんぷんがあるかを調べる必要があるわけを書きましょう。

「BとCを比べるだけでよいのではないかな。どうしてAの葉にでんぷんがあるかを調べなくてはいけないのかな？」



あきら君

2 今後の授業に向けて

- (1) 自然の事物・現象を理解していくためには、観察や実験という手法は欠かせない。観察や実験から得られた感動や疑問を通して、実感を伴った理解を深めながら、科学をおもしろいと感じられるようにしていくことが大切である。
- (2) 目的意識をもって観察や実験に取り組み、「どうすれば確かめることができるのか」「なぜそうなったのか」など、考える機会を設け、科学的な見方や考え方を養うことが重要である。
- (3) 実験の結果を基にノートに自分の考えをまとめたり、仲間と議論したりして妥当性のある考察へと練り上げる。その際、蒸散等の科学的な言葉を用いながら説明できるようにすることが大切である。